

国語ワーキンググループ

国語ワーキンググループにおける検討事項

言葉の働き（機能）と仕組みについて

国語科で育成すべき資質・能力（検討のたたき台）

国語科における学習活動の要素（イメージ案）

国語教育のイメージ（2月19日版）

国語科で育成すべき資質・能力（各学校段階別）（検討のたたき台）

高等学校国語科の改訂の方向性（素案）

（参考）言語に関する資質・能力の要素（イメージ案）

国語ワーキンググループにおける検討事項

1. 国語科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・国語科を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について（言語能力の向上に関する特別チームにおける議論を踏まえて）
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - ）何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ）知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - ）どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた国語科において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・国語科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
 - ・特に高等学校における科目構成について
 - ・漢字指導の在り方について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（ ）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき国語科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき国語科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）条件整備等について

アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- ）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ）子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

言葉の働き(機能)と仕組みについて

平成28年2月19日
教育課程部会
国語ワーキンググループ
資料1

言葉の働き(機能)

日本語も外国語も、言語として、同じ言葉の働き(機能)を持っている。
(ヤコブソンの6分類) 理論的に区分した分類であり、実際の言語活動は、複数の機能を同時に果たしている。

【主情的機能】

心や身体状況変化を外部に表出する機能。
Ex. 感嘆詞、間投詞など。

【詩的機能】

具体的な内容を伝達することよりも、メッセージそのもの(音の響き、リズム、形態、統辞、語彙など)に着目した機能。

【働きかけ機能】

相手に訴え、相手を動かす機能。聞き手を何らかの行動へと駆り立てる、一種の働きかけ。

【交話的機能】

言葉を交わし合うこと自体が、互いの心を通わせ、一体感を高める働きをすること。
Ex. 挨拶、相槌、井戸端会議

【指示的機能】

内外の環境世界を、言葉という手段を使って解釈し、描写し、記録する機能。

【メタ言語的機能】

本来、事物や事象などの対象を語る「オブジェクト言語」に対して、言語そのものを語る機能。

(参照:「言語とメタ言語」R.ヤコブソン(池上嘉彦、山中桂一訳) 勁草社、「教養としての言語学」鈴木孝夫著 岩波新書)

ヤコブソンの6分類は、対人コミュニケーションの場面における「言葉の働き」を整理したものであるため、この6分類のほか、内言語機能(思考のための内なる言語活動)があることに留意する必要がある。

国語の果たす役割、個人にとっての国語

知的活動の基盤

- ・あらゆる「知識の獲得」と「能力の形成」にかかわるもの
- ・思考そのものを支えている
- ・論理的思考力や創造性の基盤

感性・情緒等の基盤

- ・美しい日本語の表現やリズム、人々の深い情感、自然への繊細な感受性などに触れ、美的感性や豊かな情緒を培う

コミュニケーション能力の基盤

- ・言葉や文字などによる意思や感情などの伝え合い
- ・「人間関係形成能力」や目的と場に応じて「効果的に発表・提示する能力」の根幹

(参照:「これからの時代に求められる国語力について」文化審議会答申)

「言葉の働き」に関する現行の学習指導要領における主な記載 【国語科(小学校)】

- ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

言葉の仕組み

日本語や英語をはじめとするそれぞれの言語は、共通の基盤である「言葉の普遍性」と、それぞれ固有の特徴(仕組み)である「個別性」を持っている。

音声

- ・日本語の母音や子音と、英語の母音や子音には違いがある。
- ・それぞれの言語において、母音と子音を組み合わせた音節の作り方に違いがある。 など

語(分節、ことばによる世界の切り分け方)

- ・単語は、日本語と外国語(英語)が一对一で対応しているわけではない。
【例】日本語の「水」は「湯」と区別して用いるが、英語では温度に関係なくwaterを用いる。
【例】着る…身に付ける動作と身に付けている状態の両方を表す、上着やワンピースに使う wear…身に付けている状態を表す、上着やワンピースのほか眼鏡やヘアスタイルにも使う
- ・背景となる文化が語に影響を与えている。
【例】英語の“rice”に当たる語は、日本語では、「稲」「米」「ご飯」と複数ある。 など

テキストの構造、語順、主語・述語・目的語等

- ・日本語と英語では、語順の自由度に違いがある。
【例】日本語：太郎は、花子が好きだ。 = 花子が、太郎は好きだ。
- ・語順や区切りを変えることで、意味が変わることがある。
【例】警察官が、自転車で逃げた泥棒を追いかけた。 / 警察官が自転車で、逃げた泥棒を追いかけた。
赤い、ストライプのシャツ / 赤いストライプのシャツ など

テキストの文脈上の意味

- ・テキストの意味は常に一定ではなく、文脈(状況、場面、相手等を含む)によって変化するものであり、このことは全ての言語に共通する。
【例】「電話が鳴っているよ。」
「電話が鳴っている」状況を描写したのではなく、「電話をとって欲しい」という依頼の意図が含まれている。
「時計持っている？」
腕時計をしているかを聞きたいのではなく、「今、何時？」という質問の意図が含まれている。
- ・使用者や文脈との関係によって、それぞれに適切な表現は異なる。
【例】英語においても、日本語の敬語表現とは異なるが、“Would you please ~ ?”等の敬意表現がある。
【例】人に名前を聞くときは、通常、“Who are you ?”ではなく、“What's your name ?”を使う。 など

文字、表記の在り方

- ・言葉の表出は、音声と文字に分かれるが、文字を持たない言語もある。
- ・日本語は、一つの言葉を平仮名、片仮名、漢字の3通りで書くことができ、この3種類の文字を混ぜて文を書くが、英語はアルファベットの1種類のみを用いる。
- ・現代の表記においては、英語は発音とつづりが1対1で対応しているわけではないが、日本語は発音と平仮名、片仮名の表記がほぼ一致している。 など



現状と課題(平成27年度全国学力・学習状況調査【小学校】の結果より)

文の中における主語を捉えることに課題がある。(正答率53.4%)

登場人物の相互関係を捉えることに課題がある。(正答率67.7%)

個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)

思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)

学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)

言葉の働き、役割に関する理解

言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け

- ・言葉の位相、書き言葉(文字)、話し言葉、敬語、方言
- ・語、語句、語彙
- ・文の成分、文の構成
- ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
- ・表現の工夫(修辞など)

など

言葉の使い方に関する理解と使い分け

- ・話合いや話し方・発表、聞き方
- ・書き方
- ・読み方や音読・朗読

書写に関する知識・技能

伝統的な言語文化に関する理解

文章の種類に関する理解

情報活用に関する知識・技能

テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力
【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】

- 情報を多角的に精査し、構造化する力
 - ・論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)
 - ・信頼性、妥当性の吟味
 - ・推論に基づく情報の精査・取舍選択
 - ・既有知識による内容の補足、精緻化
- 構成・表現形式を評価する力

【感性・情緒の側面】

- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
- 構成・表現形式を評価する力

【他者とのコミュニケーションの側面】

- 言葉を通じて伝え合う力
 - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
 - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
 - ・自分の考えや思いの伝達
- 構成・表現形式を評価する力

考えを形成、深化する力(個人または集団として)

- 情報を編集・操作する力
- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
- 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

・言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度

・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度

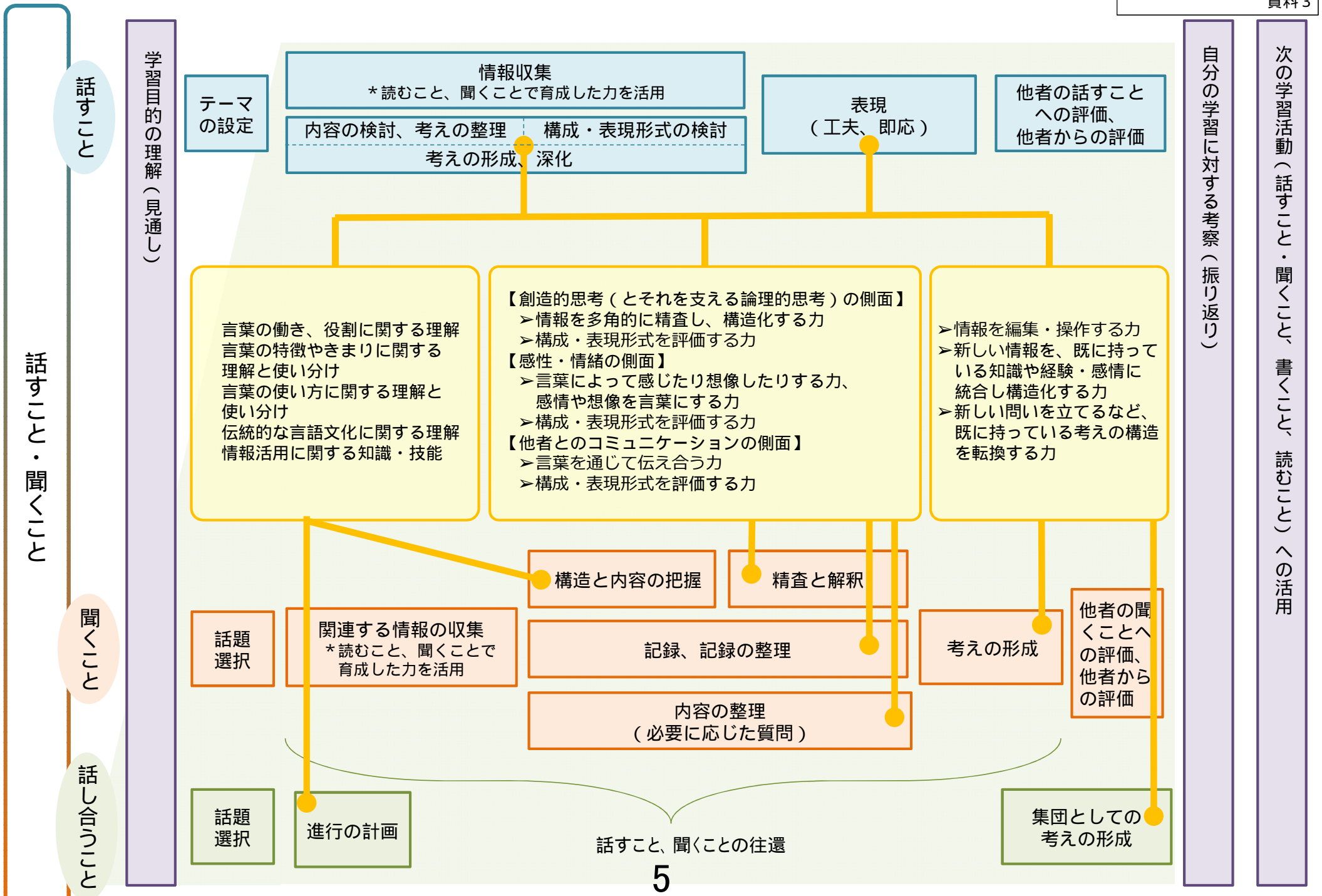
・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)

・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度

・我が国の言語文化に関心をもち、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度

・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度

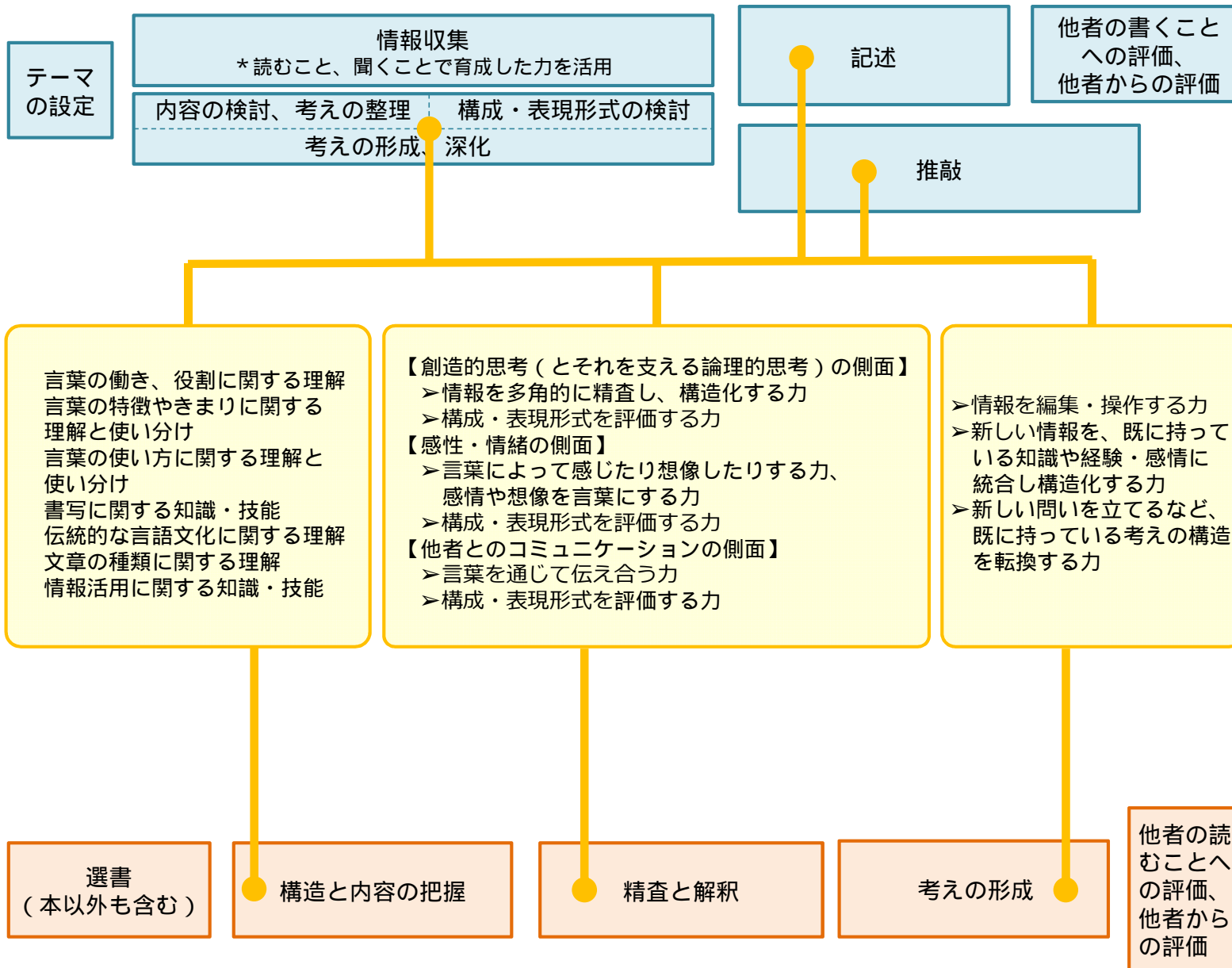
国語科における学習活動の要素(イメージ案)



書くこと

読むこと

学習目的の理解（見通し）



自分の学習に対する考察（振り返り）

次の学習活動（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）への活用

高等学校基礎学力テスト
(仮称)



【高等学校】

言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言語文化の担い手としての意識をもち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図っている。
創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、それを通じて、社会的な視点から、自分の思いや考えを統合的・創造的に形成し深めている。
生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な言葉の特徴やきまり、言葉の使い方などについて、総合的に理解し、それらを効果的に使い分けることができる。

全国学力・学習状況調査



【中学校】

言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言語文化に対する関心をもち、国語を尊重している。
創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、それを通じて、自分の思いや考えを形成し深めている。
社会生活に必要な言葉の特徴やきまり、漢字の読み書き、言葉の使い方などについて理解し、それらを適切に使い分けることができる。



【小学校】

言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言葉に対する関心をもち、国語を尊重している。
創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、それを通じて、自分の思いや考えを形成している。
日常生活に必要な言葉の特徴やきまり、文字の読み書き、言葉の使い方などについて理解し、それらを使い分けることができる。

【幼児教育】 (教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- ・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
- ・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。
- ・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。
- ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。

個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）
<p>言葉の働き、役割に関する理解</p> <ul style="list-style-type: none"> * 言葉の働き、役割 (例えば外国語と比較して) * 言葉の働き、役割 (主に効果的な使い分け) <p>など</p> <p>言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> * 言葉の位相、書き言葉、話し言葉、敬語、方言 * 平仮名、片仮名、ローマ字、学年別漢字配当表 * 日常生活で使われる敬語、方言と共通語の違い * 学年別漢字配当表、大体の常用漢字 * 時間の経過による言葉の変化 * 常用漢字 <p>語、語句、語彙</p> <ul style="list-style-type: none"> * 主に具体的な事象を表す語句 * 主に抽象的な概念を表す語句 * 単語の類別と働き * 社会性・専門性の高い語句、思考・思索の深化につながる語句 * 類義語、対義語等の語彙の体系的理解 <p>文の成分、文の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> * 主語・述語、修飾語・被修飾語の関係 * 基本的な文の構成 * 多様な文の構成、文の成分の順序や照応 <p>文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 指示語、基本的な接続語(順接、逆接など) * 文章の基本的な構成や展開 * 接続語等を要しない文と文との関係 * 多様な文章の種類と典型的な構成や展開 * 文章の独創的な構成や展開 <p>表現の工夫(修辞など)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 擬人法、比喩、反復など * 書き出しや結びの工夫など * 表現の技法の使い分け * 文章の種類に応じた表現の仕方 	<p>テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力</p> <p>【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 情報を多角的に精査し、構造化する力 * 事実と意見の区別や情報と情報の関係性について、見出しや文頭の語句、接続語などを手掛かりに考え、内容や大まかな展開を捉える力 * 目的に応じ、順序やまとまりを考えて情報を整理し、自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力 * 情報の信頼性・妥当性、情報と情報の関係性等を根拠に基づいて検討し、内容や展開を解釈したりする力 * 目的に応じ、伝達の効果を考え、情報を整理・構成し、自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力 * テキスト(音声、文字、映像等を含む)の内容や展開、それらに含意された意味を、論理や既有知識に基づいて、吟味、補足、精緻化を行い、解釈する力 * 情報の質と量に関し、情報の信頼性・妥当性や論理性、目的との整合性等を考察し、情報を整理・構造化して表現する力 <p>➢ 構成・表現形式に対して評価する力()</p> <ul style="list-style-type: none"> * 構成・表現形式に対して、自分の考えをもつ力 * 構成・表現形式を根拠をもって評価し、自分の表現に生かす力 * 他の構成・表現形式と比較しながら、その妥当性や効果を評価する力、表現行為を行いながら、相手の反応や状況に応じてより良いものに改善する力 <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 * 体験的・感覚的に言葉を捉えて感じたり想像したりする力 * 自分の思いや感情をありのまま、言葉にする力 * テキスト・情報に表された世界を、言葉の意味や文章の展開を手掛かりに、感じたり想像したりする力 	<p>言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度</p> <p>言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度</p> <p>様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)</p> <p>言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度</p> <p>我が国の言語文化に対する関心、及び、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度</p> <p>自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度</p>

- * 多様な文体の効果と使い分け
- * 小論文等の書き方

言葉の使い方に関する理解と使い分け

- ・話し方や話し方・発表
(略)
- ・書き方
(略)
- ・読み方や音読・朗読
(略)

書写に関する知識・技能

- * 筆記具の持ち方、文字の形を整えて書く技能
- * 文字の大きさや筆記具の特徴と選択
- * 文字を正しく整えて速く書く技能
- * 表現方法や伝達方法の効果と使い分け
- * 様々な文章の目的に応じた文字の書体や配置
- * 実用的な文章の目的に応じた、効果的な文字の書体や配置

伝統的な言語文化に関する理解

- * 文語調の文章の特徴
- * 昔の人のものの見方や感じ方
- * 短歌や俳句、ことわざ、慣用句、故事成語
- * 代表的な古典作品の種類や特徴
- * 現代につながる古典や芸能の特質や意義
- * 現代につながる言語文化の特質や意義
- * 代表的な古典作品とその歴史的背景
- * 文語のきまり、訓読のきまり

文章の種類に関する理解

(略)

情報活用に関する知識・技能

- * 索引の利用、目次や奥付の見方
- * 学校図書館の意義、役割
- * 学校図書館やWebサイト等における情報検索の仕方
- * 様々なメディアの特性と使い分け
- * 学校図書館やWebサイト等により収集した情報の真偽や適否の確認、編集の仕方

など

- * 自分の思いや感情を多様な表現の中から言葉を選び、思いや感情を明確にしたり深めたりする力
- * テキストに含意された世界を、言葉の意味や感覚を手掛かりに、根拠をもって感じたり想像したりする力
- * 自分の思いや感情を適切に言語化することで、思いや感情を明確にしたり、深めたり、望ましい方向にコントロールしたりする力

➤ 構成・表現形式に対して評価する力
(と同じ)

【他者とのコミュニケーションの側面】

➤ 言葉を通じて伝え合う力

- * 自分の体験や感情を元に相手の心を想像する力
- * 相手との関係性を理解し、相手の意図や内面を想像・推察する力
- * 社会的な文脈において、相手との関係性を把握し、相手の意図や内面を想像・推察する力

など

➤ 構成・表現形式に対して評価する力
(と同じ)

考えを形成、深化する力(個人または集団として)

➤ 情報を編集・操作する力

- * 対面する相手や具体的な目的に応じて、情報を選択する力
- * 相手や目的に応じて、話題、題材などを設定し、情報を編集・操作する力
- * 相手や目的に応じて、話題、題材、問題意識などを設定し、情報を編集・操作する力

など

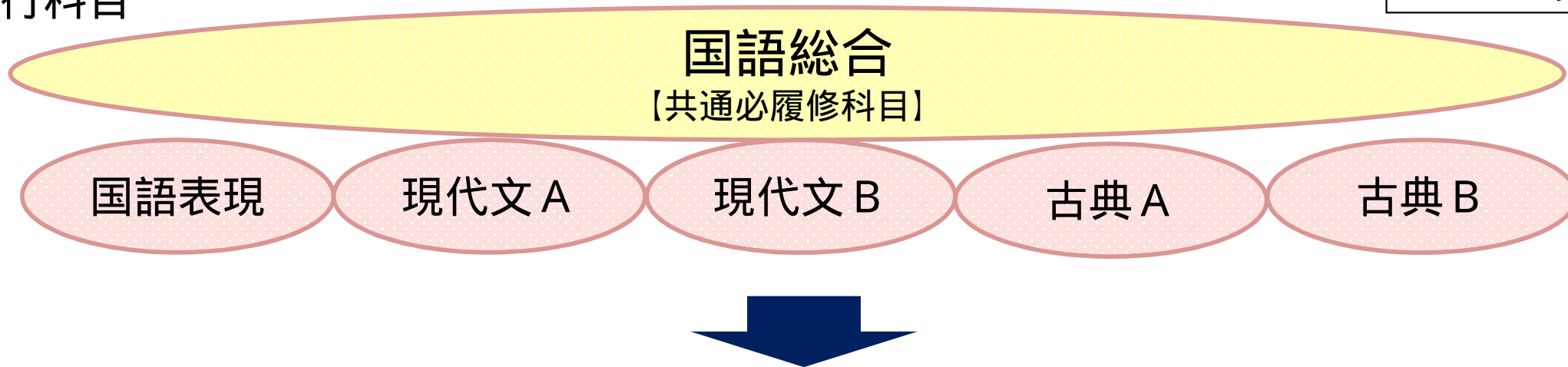
➤ 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し、構造化する力

- * 他者の思い・考えや新たな情報を、自分の思い・考えや既知の情報に照らして取り入れる力
- * 社会生活における様々な情報を、既存の知識や経験・感情に基づいて解釈し、整理・構成する力
- * 社会的文化的な背景を有する未知のテキストを、既存の知識や経験・感情に体系的に統合し、構造化する力

➤ 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

- * 考えたこと、分かったことを元に、更に確かめたいこと、調べたいことを意識化する力
- * 考えたこと、分かったことを元に、新しい問いを立てたり、新たな発想や主張を形成したりする力
- * 既成の概念と異なる新しい問いを立てたり、他者と異なる発想や主張を独自の論理や表現によって確立したりする力

現行科目



改訂の方向性（案）

共通必修科目案

【現代の国語(仮称)】

実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目
・実社会・実生活における言語による諸活動に必要な国語の能力
(根拠に基づいて論述したり議論したりするために必要な能力、また、それらの能力の育成に必要な、多様な資料等を収集して解釈する能力 等)

【言語文化(仮称)】

上代(万葉集の歌が詠まれた時代)から近現代につながる我が国の言語文化への理解・関心を深める科目
・言語の文化的側面(我が国の歴史の中で創造され、上代から近現代まで継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの)への理解・関心を深め、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に生かす能力

選択科目案

【論理国語(仮称)】

多様な文章等を、多角的な視点から理解し、**創造的に思考して**自分の考えを形成し、**論理的に**表現する能力を育成する科目

【文学国語(仮称)】

小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景等を読み味わい、表現の仕方等を評価するとともに、それらの**創作に関わる**能力を育成する科目

【国語表現(仮称)】

表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と**伝え合う**能力を育成する科目

【古典探究(仮称)】

古文・漢文を**主体的に**読み深めることを通して、我が国の伝統的な言語文化への理解・関心を深める科目

言語に関する資質・能力の要素(イメージ案)

～「国語科」及び「外国語科・外国語活動」を通じて育成すべき言語能力～

認知から思考へ

テキスト(情報)の理解

構造と内容の把握

- 言葉の働き、役割に関する理解
- 日本語や外国語の特徴やきまりに関する理解と使い分け
- ・言語の位相、書き言葉(文字)、話し言葉
- ・語、語句、語彙
- ・文の成分と文の構成
- ・文と文の関係、段落、段落と文章の関係
- 言葉の使い方
- ・話し方、聞き方、表現の工夫
- ・聞き方、読み方
- 言語文化に関する理解
- 既有知識(教科に関する知識、一般常識、社会的規範等)

精査と解釈

- 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
- 情報を多角的に精査し、構造化する力
- ・ 論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)
- ・ 信頼性、妥当性の吟味
- ・ 推論に基づく情報の精査、取捨選択
- ・ 既有知識による内容の補足、精緻化
- 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
- 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
- 言葉を通じて伝え合う力
- ・ 相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
- ・ 相手の心の想像、意図や感情の読み取り
- ・ 自分の考えや思いの伝達
- 構成・表現形式を評価する力

自分なりの整合性のとれた
考えの形成

- 情報を編集・操作する力
- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
- 新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

表現

構成・表現形式の検討

テーマ・内容の検討

考えの形成、深化

推敲

- 文章の推敲
- ・ 構成・表現形式の修正
- ・ 内容の再検討、考えの再整理
- 発話の調整
- ・ 相手に配慮した表現
- ・ 相手の視点を考慮した展開

文章や発話による表現

思考から表現へ